



横浜市立大学 地域貢献通信

VOI.4
2021.12

市民に親しまれる大学でありたい

横浜市立大学は、横浜とともに歩む大学として、研究・教育・診療の力で市民や地域社会に貢献します。この通信では、市大が取り組む様々な地域連携活動をご紹介します。

教員地域貢献活動支援事業「地域実践研究」 地域社会とともに進める研究

横浜市立大学では、研究の力で地域や社会の課題解決に寄与することを目指し、地域の方々と連携した研究活動を行っています。

今回は2つの研究課題を紹介します。



企業緑地を活用したまち保育的環境学習の可能性

研究代表：国際教養学部・三輪律江教授

環境問題には身近なところからのアプローチが重要です。この研究では、企業が敷地内等を持つ緑地（企業緑地）のみどり資源を活かし、子どもたちに向けた環境学習プログラムづくりをしています。

まちにある様々な資源を活用し、まちの中で子どもたちが育っていく土壌を作る「まち保育」の観点から、地域の自然資源としての企業緑地に注目し、その活用を図ります。

今年度、第一弾として、ENEOS 根岸製油所の社員家族を対象としたイベントを試行。企業の敷地内にある森の中で、子どもたちは鳥の巣箱づくりや、スタンプラリーなど様々なアクティビティから自然を学びました。

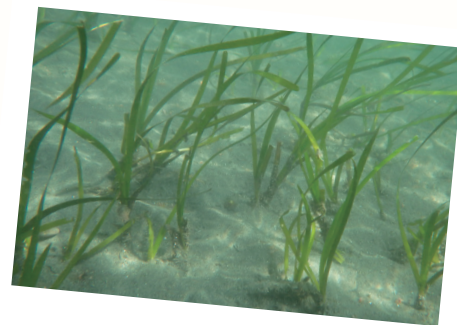
将来的には、地域の小学校などと連携した環境学習プログラムを実施し、企業緑地のみどり価値の見える化や、地域との企業の共生を目指します。

都市部海域でのアマモ場再生を目指した生物学的研究

研究代表：理学部・塩田肇准教授

2000年ごろから市民活動により再生に取り組んできた横浜金沢湾のアマモ場は、海水温の上昇や大型台風の襲来などの影響からか、2019年秋ごろから衰退してきています。

この問題を解決するため、理学部・塩田肇准教授が八景駅近くにあるアマモ場の環境を定期的にモニターし、アマモの生育にどのように影響するのかを分析しています。これらの調査は横浜金沢湾だけでなく全国の都市部海域で、アマモ場再生に必要な基本情報として活用することができます。



発行部署

公立大学法人 横浜市立大学 地域貢献センター
横浜市金沢区瀬戸 22-2 金沢八景キャンパス
Tel : 045-787-2449
Mail : chiiki@yokohama-cu.ac.jp

Web サイト [地域貢献センター WEB サイト](#)

Twitter [@ YCU_chiiki](#)

学生がSDGsを テーマに お弁当を考案

国際商学部・柴田典子准教授ゼミの学生と横浜南部市場の「横浜食品サービス」がタッグを組み、「おさかなお弁当」を考案。食品ロス削減の視点から魚の端材を活用し、包材にはバイオ25%素材を使用するなど、からだと環境にやさしいお弁当です。大学キャンパス近くのスーパー(株)ヨークでも販売されました。

☞ nippon.com に掲載されました。



みなとみらいサテライトキャンパスが設置されているNANA Lv. (ナナレベル) を拠点として、NANALv. 入居企業のスカイファーム株式会社とデータサイエンス研究科の佐藤彰洋教授、小泉和之准教授らのグループによるフードデリバリー・テイクアウトの購買行動データを活用する共同研究がスタートしました。

☞ 詳しくは [こちら](#)

※ NANA Lv. (ナナレベル) とは

三菱地所株式会社が横浜ランドマークタワー7Fにオープンした産学連携イノベーション拠点です。データサイエンス研究科をはじめ大学院の授業を中心に行うサテライトキャンパス、本学との協業を目的とした企業のためのプロジェクトスペースで構成されています。



NANA Lv. 入居企業と 共同研究をスタート！ フードデリバリー・テイク アウトの購買データの活用

金沢区瀬戸3丁目付近の空き家を まちのコミュニティへ

金沢区にある空き家を活用し、地域のコミュニティづくりに、学生たちが取り組んでいます。

学生たちは自ら空き家を改修して「せとさんち」と名付け、地域の方々が参加できるイベントやワークショップを企画・運営しています。

市大学生のほか、横浜国立大学、東京工業大学の学生も参加するチームとなって、居心地のよい場所を自分たちで設計して作ったり、グラフィックデザインや広報に力を入れるなど、学生の感性を活かして取組を広げています。

この活動は、令和3年度の [キャンパスタウン金沢サポート事業](#) の支援により実施しています。

活動の様子はInstagramで掲載中です。

★ Check our Instagram → #setosanchi_akiya



外国に由来を持つ親子にむけて コミュニケーションの場づくり支援

国際教養学部・陳礼美教授ゼミ(社会福祉学ゼミ)の学生が中心となり、外国に由来を持つ親子に向けたサポートプログラムを開始しました。

金沢シーサイドタウンにある公園など、公共の場を活用して、学生が集まった子どもたちと遊ぶなどしながら、外国に由来を持つ親子同士のコミュニケーションの場づくりを行っています。次回は1月20日開催予定です。

開催情報はInstagramから

★ Check our Instagram

→ #Limej_Welfareseminar



入院する子どもたちのために 学生団体によるベッドサイド学習支援の取組

小児病棟に入院する子どもたちに学ぶ機会を提供するとともに、楽しいと思える体験ができるよう、学習支援やイベントの企画をしている学生団体「one by ONE」。

2020年以降は、オンラインを活用しながら、入院中の子どもたちの年齢や学習状況にあわせた学習支援や、似顔絵づくり、ピアノ演奏会などのイベントを行っています。

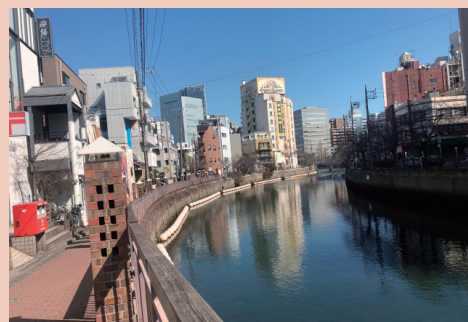
活動の様子は [WEBサイト](#) でも！



まちを歩いて魅力を知る 「まちあるき」

黄金町で「歩く 出会う あの街で」

体験型街歩きイベント「横浜 あの街を歩くー『草枕』のように手書きの地図で」が12月4日に開催。約30あるプログラムのひとつとして、国際教養学部・鈴木伸治教授ゼミの学生がまちあるきのプログラム「歩く 出会う あの街で」を企画し、学生とともに黄金町エリアで活躍している人を訪ね歩き、アートの街として生まれ変わった、まちの魅力を発見しました。



医学部看護学科の活動

横浜こどもホスピス「うみとそらのおうち」 看護学科・小児看護学が施設設計に協力

「こどもホスピス」とは、重い病気によって生命を脅かされている子どもが、病気や治療によって遊びや学び、成長・発達を制限されずに、その子らしく過ごすことのできる場所です。

小児看護学領域ではプロジェクトメンバーと協力し、施設設計や支援内容を一緒に検討してきました。

2021年11月21日、「こどもホスピス」は金沢区六浦東に開所しました。「こどもホスピス」での支援が子どもと家族に寄り添ったものになるよう、小児看護学領域は引き続き協力していきます。

横浜こどもホスピスの紹介動画もご覧ください [👉こちら](#)



こどもホスピスに設置された家族で入れる大きなお風呂

医学部看護学科の活動

こころの病気をもつ人への理解を深めていただくために 市民向けの啓発動画を監修しました

こころの病気をもちながら地域で生活する人々への理解を深めていただくための啓発動画の制作に、看護学科・精神看護学教員が監修として参加しました。

横浜市南区障がい児者団体連絡会が精神障害者動画制作プロジェクトを立ち上げ、当事者の生活の様子を2本、家族の体験やメッセージを1本、合計3本の啓発動画ができました。

精神疾患や障害者というと、わからないから怖い、関わり方がわからないから距離を置いてしまうという場合があります。多くの皆さまに知っていただくために、防災訓練などの住民の集まる機会や、障害者週間の取り組みとして、動画の上映や情報発信が行われました。



医学部看護学科の地域貢献ニュースは [👉こちら](#)



横浜市立大学基金 2020年度活動報告を掲載いたしました

2020年度（令和2年度）の寄附金は、皆様からの温かいご支援により、総額151,399千円に達しました。

横浜市立大学基金に対しまして深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆さまからお寄せいただきましたご厚志は、学生や大学のさまざまな支援のために活用させていただいています。

👉 2020年度の活動報告の詳細は [こちら](#) をご覧ください。



大学 web サイトにも話題のニュースを掲載しています

[もっと知りたい!](#)